

E-14 調理実習の教授法に関する研究 (第1報)

—8mm フィルム映写法の検討—

松山東雲短大 山上ユリ子

1. 調理技術を修得するためには、実習によるのが効果的であることは周知のことである。実習の導入には種々あるがデモンストレーションをしながら教授するのが望ましい。しかし、デモンストレーションとその準備に要する時間・労力・経費は非常に大きい。そこで筆者はデモンストレーションにおいて時間の短縮・労力の軽減・経費の節減をはかり、なお導入を効果的にすることができればよいと考えて、8mmフィルムを制作しこれを使用して比較検討した。

2. 松山東雲短大1年生100名を対象にし、アンケート用紙によって自己評価をさせた。使用したフィルムはモノクロウムで映写時間を短縮するために、主として調理の手順を撮影し1回の実習に使用するものを5分間内外で映写できるように制作した。

3. 8mmフィルム使用組と非使用組との間には危険率5%で有意の差は認められなかった。検定した母集団は正規分布であるという確証がえられないので、さらに百分率の信頼区間表によって、差の有無を確かめた。このことから8mmフィルム映写法は時間の短縮・労力の軽減・経費の節減をはかることができるといえる。